

平成 23 年度コンテンツ産業人材発掘育成事業（若手映像等人材海外研修・国際ネットワーク構築事業）  
プロデューサーカリキュラム

## 国際共同製作ピッチ作成ガイド

---

STORIES LLC

President and CEO

鈴木智也



経済産業省  
Ministry of Economy, Trade and Industry

UNI JAPAN

## 目 次

1. はじめに .....	2
2. 国際共同製作の可能性を広げる「ハリウッド式ピッチ」 .....	3
3. ピッチで大切な 3 つのポイント .....	4
3-1. KISS の原則.....	4
3-2. Passion .....	4
3-3. Rehearsal, Rehearsal, Rehearsal .....	5
4. 国際共同製作ピッチの構成（15 分） .....	6
4-1. なぜこの作品が私にとって大切な（2 分） なぜ“今”この作品を作ることが大切な（1 分） .....	6
4-2. コンセプトとログライン（1 分） .....	7
4-3. キャラクターとシノプシス（7 分） .....	7
4-4. キャストとディレクター候補（2 分） .....	8
4-5. 対象となる観客は誰か（1 分） .....	8
4-6. 作品のおおよその予算とスケジュール（1 分） .....	9
5. 国際共同製作ピッチのサンプル「FACING AMY」（15 分） .....	10
5-1. なぜこの作品が私にとって大切な（2 分） .....	10
5-2. なぜ“今”この作品を作ることが大切な（1 分） .....	11
5-3. コンセプトとログライン（1 分） .....	12
5-4. キャラクターとシノプシス（7 分） .....	13
5-5. キャストとディレクター候補（2 分） .....	19
5-6. 対象となる観客は誰か（1 分） .....	21
5-7. 作品のおおよその予算とスケジュール（1 分） .....	23

## 1. はじめに

2012年2月22日（水）から25日（土）の4日間にわたって、公益財団法人ユニジャパン並びに経済産業省の主催により、「国際若手人材のための映画プロデュースワークショップ」が北海道にて開催された。これは「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭」と提携して行われたイベントで、国内のみならず、韓国、中国（香港）、シンガポール、ベトナム、ヨルダン、オーストラリア、イギリス、フランス、ポーランド、アメリカといった計11か国から、世界の映画産業の将来を担う有望な若手プロデューサー19名が参加した。

ワークショップの目的は、研修を通じて“世界”を意識した映画作りへのマインドを身につけ、重要な国際共同製作の経験を獲得すると共に、参加者同士の将来につながる国際的なネットワークを構築することにある。内容としては、3、4名でひとつのチームを結成。各国の国際共同製作の事例発表や札幌コンテンツ特区に関するレクチャー、北海道札幌周辺での実際のロケーションハンティングを参考に、北海道をベースにした国際共同製作企画プロジェクトをチームごとに開発し、ピッチコンペティションを行った。

本稿は、ファシリテーターとしてワークショップに参加した筆者が使用した講義部分の一部を活用し、ピッチ（プレゼンテーション）およびトリートメント作成におけるサポート・ガイドラインとなるべく、まとめたものである。国内外における国際共同製作の実務経験者や大学、あるいは大学院で映画製作を学ぶ若手人材を対象としている。

解説しているサンプルピッチは、実際にワークショップにおいて15分で行ったものであり、必要要素を含んだ国際共同製作企画を目的としたものである。

## 2. 国際共同製作の可能性を広げる「ハリウッド式ピッチ」

ハリウッドをはじめ、多くの国で映画やテレビ番組は、基本的にインディペンデントのプロデューサーによって、スタジオ、配給会社、テレビ局などに企画が持ち込まれ、出資や配給、放映が決定し、製作される。企画を一から立ち上げるプロデューサーが権利を持っていることが多く、アイデアやストーリーを見つけて磨き、スタジオなど出資者に“売り込む”プロデューサーこそが、プロジェクトのリーダーである。従ってプロデューサーにとっては、自らが信じるアイデアやストーリーを出資者に対して“売り込む”能力が最も重要なスキルのひとつである。

ピッチにはプロデューサーによってそれぞれのスタイルがあり、正解を限定することは難しいが、ハリウッドではある程度標準化されたピッチの公式が存在する。これは、限られた時間でできるだけ多くのアイデアを直接聞きたい出資者たちと、できるだけ多くのピッチを行いたいプロデューサーとの間で収斂してきた、業界慣習のようなものでもある。アジアや日本のプロデューサー、そして出資者にとっても、こうしたピッチの技術を磨き、多くの企画が切磋琢磨する環境が生まれることで、コンテンツの質を向上させ、また国際共同製作の可能性拡大につながると考えられる。

### 3. ピッチで大切な 3 つのポイント

#### 1) KISS (Keep It Simple and Sweet)

#### 2) Passion

#### 3) Rehearsal, Rehearsal, Rehearsal

ピッチでは、短時間で出資者（スタジオ、配給会社など）や参加して欲しいクリエイター（ディレクター、キャストなど）を説得しなくてはならない。数多くの企画を検討する相手から与えられる時間は限られている。そのため、短時間のうちにストーリーの魅力や企画について簡潔に説明し、相手を惹きつけなければならない。

そのために重要なポイントは 3 つあると考えられる。

#### 3-1. KISS の原則

ビジネスにおいて「KISS (Keep It Simple, Stupid あるいは Keep It Short and Simple) の原則」はできるだけ簡潔にという意味の格言であり、良く知られたところであるが、エンタテインメント業界ではこの格言をもじって「Keep It Simple and Sweet (素敵で簡潔に)」という経験的な原則として用いられることが多い。その意味するところは、簡潔性と聞き手の共感が売り込み成功への鍵ということである。多くの場合、同じ企画を同じ相手に何度もピッチするチャンスは来ない。

従って、一回で企画内容を把握 (Simple) できるだけではなく、魅力 (Sweet) を感じて、その作品に携わりたいと心から感じさせるべく練り上げることが重要である。

#### 3-2. Passion

パッション、つまり情熱である。映画製作はプロパティ選定～脚本開発～セットアップ～製作～配給に至るまで、時には 10 年という長い時間のかかるプロジェクトだ。プロジェクトのリーダーであるプロデューサーは長期間にわたり、いかなる問題が発生しようと、企画を推し進める強い気持ちが必要となる。つまり、このアイデアやストーリーを映画として世に出したい、企画を何がなんでも実現させたいという情熱である。映画やテレビなど、個人の感受性が良し悪しを左右するコンテンツ企画のピッチでは、プロデューサーの情熱が相手を動かすことがある。逆に言えば、企画内容が良くてもプロデューサーから情熱を感じない企画は通る可能性が低くなる。そのため、ピッチの中でプロデューサーの情熱が伝わる言葉の選び方、演出やプレゼンスタイルを心がける必要がある。

### **3-3. Rehearsal, Rehearsal, Rehearsal**

最後のポイントはリハーサルだ。資料は相手に企画内容を伝わりやすくするためのツールであって、伝えているのはプロデューサー本人である。本来であれば、リハーサルにいちばん時間を割くべきとも考えられる。本番に近い環境（資料、時間、設備、声量、など）で何度も何度もリハーサルを行うことで、ピッチ方法だけではなく企画内容そのものにも改善の気づきを得ることができる。可能であれば、15 分間のプレゼンに対して最低でも数十回はリハーサルを行うことが望ましい。簡潔に、魅力的に情熱を持って伝えられているか、リハーサルを行い、買いたくなるような、乗りたくなるような企画なのかを客観的に検証した上でピッチに臨むことが、成功のための重要なポイントだと考えられる。

## 4. 国際共同製作ピッチの構成（15 分）

- なぜこの作品が私にとって大切な（2 分）
- なぜ“今”この作品を作ることが大切な（1 分）
- コンセプトとログライン（1 分）
- キャラクターとシノプシス（7 分）
- キャストとディレクター候補（2 分）
- 対象となる観客は誰か（1 分）
- 作品のおおよその予算とスケジュール（1 分）

ここでは、筆者が「国際若手人材のための映画プロデュースワークショップ」のために用意した福島県と北海道をベースにした国際共同製作「FACING AMY」のサンプルピッチ（10 ページ参照）を活用して、ピッチの作成における構成要素を紹介する。

### 4-1. なぜこの作品が私にとって大切な（2 分）

#### なぜ“今”この作品を作ることが大切な（1 分）

冒頭の 1 分～2 分は、相手の興味を惹きつける“つかみ”のために使う。それは企画内容の強みによって異なる。作品にすでにアタッチされた出演者や監督などのクリエイターかもしれないし、魅力的な設定やストーリーかもしれない。場合によっては「人を殺したいほど憎んだことがありますか？」といった相手がドキッとするような質問の投げかけを行うことや、相手に目を閉じてもらい初恋を思い出すような言葉を並べて作品の世界観に引き込むような演出方法なども有効である。

サンプル企画では設定、つまり 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災が大きな役割を果たすため、地震発生直後の様子を思い出してもらいながら、その時にプロデューサーとして自身が何を感じて何を伝えたいと思ったかを相手に語りかけるところから始めている。ピッチをしている本人が信じている企画かどうか試される瞬間は、つかみである。「まあまあの企画です」などと無意味に謙遜して始めるピッチでは、そのプロデューサーの意気込みが疑われる。企画全体の説得力が増し、続く企画内容への関心が高めるために、つかみで何を話し、聞き手に何をイメージしてもらうかは非常に重要である。筆者自身はこのつかみにおいては、自分が経験した当時の日本や世界におけるソーシャルメディアやマスメディアにおける議論のあり方に疑問を感じ

たことから、ニュージーランドからの留学生と日本の高校生の価値のぶつかり合いをテーマにした、エンタテインメント作品を作りたいという気持ちでイントロダクションを始めた。

## 4-2. コンセプトとログライン (1分)

次に、作品のコンセプトとログラインを簡潔に説明する。ここで初めて、実際のストーリー内容が紹介される。主となるキャラクターが目標を持ってストーリーを動かす中で、どのような問題に立ち向かい、またそれをどのように乗り越え、最後にどのような感動的な結末を迎えるのかを簡潔に述べる。ログラインは、ストーリーの内容をまとめた1文から2文の簡潔な要約である。サンプル企画では「2011年の大震災の際、郡山の男子高校生がニュージーランドからの留学生と向き合うことによって大人になる物語」と置いている。「場所や時代、主人公がどう変化するか」を簡潔にまとめることが大切である。

## 4-3. キャラクターとシノプシス (7分)

キャラクターの説明も重要だ。サンプルピッチでは、プロタゴニスト＝主人公であるタカシと主人公の成長を促すアンタゴニストとして登場するエイミーのふたりの特徴を説明する。主人公のタカシ（16歳）は農家の息子で、農業を継ぐしかないとあきらめており、将来について希望を持っていない半端な高校生である。ストーリーの主人公で、観客は基本的にタカシの目線で彼が目標に向かって葛藤する姿を追う。エイミー（17歳）は、ニュージーランドから郡山にやってきた交換留学生で、札幌雪祭りに行くのが夢である。まっすぐで強情な性格の持ち主で、剣道をするタカシに惹かれている。タカシの壁として立ちはだかり、試練を与えることもあるが、それを乗り越えるきっかけも与える重要な人物である。観客にとっては、このふたりのキャラクターに魅力を感じることができるかどうか重要だ。

シノプシスとは、ストーリーの要約である。数行のシノプシスから数ページのシノプシスまで様々な長さのフォーマットがあるが、重要なのは結末まで説明するということだ。映画の宣伝文句にある、「謎の物体が地球に降り立ち、巻き込まれたひとりの高校生。そこに巨大な敵が現れ、絶体絶命。しかし高校生が偶然浴びた光によって、主人公は未知のパワーが手に入れた。果たして主人公は人類を救えるか？」というのはシノプシスではなく、状況設定を説明しているだけである。映画企画のトリートメント・ピッチにおいては、結末までをしっかりと話さなければならない。なぜなら、結末を知らずに出資や投資を行うことは難しいからである。このシノプシスを説明するに当たっては、シド・フィールド（アメリカの脚本家。映画関連の著書も数多く出版しており、特に『Screenplay（映画を書くためにあなたがしなければならないこと）』は世界中で発売されている）が提唱した三幕構成とプロットポイントを使うと効果的である。第一幕で状況が設定され、主人公が達成しなければいけないゴールを見つける。第二幕で主人公が乗り越えなけ



ればいけない問題が明らかになり、葛藤を乗り越えて主人公は成長していく。第三幕では最終的な試練を乗り越えて主人公がゴールにたどり着く。これが通常使用されるストーリーテリングのフォーマットであり、この説明の方が聞き手にとってはわかりやすい。今回のサンプルピッチではそれぞれ三幕とプロットポイントに分けて、シノプシスを口頭で説明し、ポイントごとにイラストを見せる手法をとっている。

#### 4.4. キャストとディレクター候補（2分）

作品を魅力的に作り上げるために、まず挙げられるポイントは「どんなクリエイターが参加することで作品が魅力的になるか」、つまり理想とするキャストと脚本家・監督などのクリエイター候補である。実際にクリエイターの参加が決定している場合には、しっかりと売り込み材料にする必要がある。

ピッチの段階でまったくキャストが決まっていない場合でも、理想の監督とキャストを挙げる。これは、ピッチを聞く相手がその映画をイメージしやすくするためである。サンプル企画は、若い高校生男女の成長物語である。タカシの役には、無気力で夢のない青年から目的意識がはっきりとした大人に成長する過程を表現してくれる日本の若手俳優2名を挙げた。エイミーの役には、アジアで人気が出そうな清らかな雰囲気を持ちながらタカシに変化を与える強い意志を持つ女性を表現できる若手女優を検討しているという説明を行った。また、監督には若い俳優のみずみずしい成長を切り取り、人間の機微を描くことができる監督2名を検討している。この作品は海外での興行も考えているので、監督候補は日本人俳優をしっかりと日本語で演出しつつ、ユニバーサルに通用するディレクティングの経験者を条件に挙げた。キャストと監督のいずれも、作品の予算規模やスケジュールなどを考慮に入れて、現実的な案を出す必要がある。

#### 4.5. 対象となる観客は誰か（1分）

ビジネスポテンシャルの説明に必要不可欠なのが、作品の対象となるターゲット（観客層）である。そのターゲットはどれくらいの数がいて、なぜこの作品がそのターゲットに受けるのかも説明しなければならない。サンプル企画は若い男女の恋物語を通して、ふたりに最も共感できる若者に確かな意志を持って自分の道を切り開く強さについて考えて欲しいため、ターゲットは「20代男女」に設定している。

上記のほか、作品の世界観や作品規模を説明するために、撮影ロケーションを提示することなどもポイントとなる。国際共同製作であれば、海外で撮ることのメリットを考えることができる。海外で撮影を行うことで得られるロケーションインセンティブ、現地のロケーション支援、現地の専門スタッフや技術陣の技量、室内スタジオや野外セット場、編集・音響・デジタル現像作業といったポストプロダクション設備の充実感などを検討する必要がある。ピッチでは、作品の魅

力、規模感、ビジネスポテンシャル、およびそこにかかる想いが 100%理解され、その想いに乗ろうと思ってもらうことが非常に重要だ。

#### 4-6. 作品のおおよその予算とスケジュール (1 分)

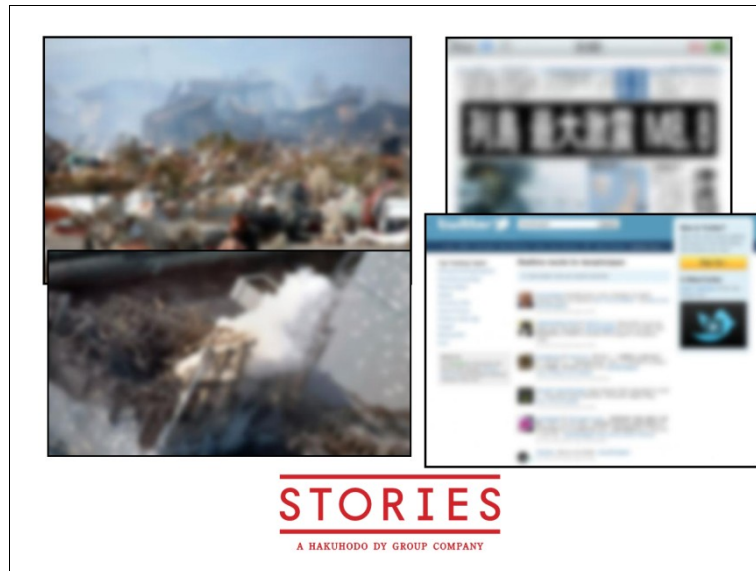
作品のおおよその予算とビジネス戦略も提示する。サンプル企画では、7,000 万円の製作予算と 3,000 万円の宣伝費で 5,000 万円～3 億円の興行収入をケースシナリオとして提示している。配給戦略としては、世界の映画祭を回って認知度を高めた後に日本国内で 7 都市 30 スクリーンでの公開からスタートし、60 スクリーンへのプラットフォームリリース（段階拡大）を目指す作品規模と説明している。製作経験が豊富な人はストーリー、ターゲット、予算を聞けば、「この作品は出資額をリクープできるか」「どの市場で公開すればよいか」などを計算できるため、現実的な数値を提示する必要がある。

最後にスケジュールの紹介だ。サンプル企画では、2012 年をしっかりと脚本開発、クリエイターパッケージングに充て、2013 年に制作から映画祭出品、そして震災より 3 年後の 2014 年 3 月に劇場公開を目指すという紹介を行っている。本稿の文面や資料からは伝えられないかもしれないが、ピッチを行う時の情熱が最も重要だということを改めて強調したい。実際のピッチにおいても、最後にプロジェクトに対する想いと情熱で締めくくることが有効である。

初めに記したとおり、ピッチには様々なフォーマットがあり、これが正解ということは一概に言えない。しかし聞き手の心を動かすためには、投資判断に必要とされる要素をきちんと入れた、企画を魅力的に見せる、トリートメント（企画書）の開発と入念なプレゼンテーションの開発が欠かせない。本稿が魅力的な国際共同製作プロジェクトにつながる一助となれば幸いである。

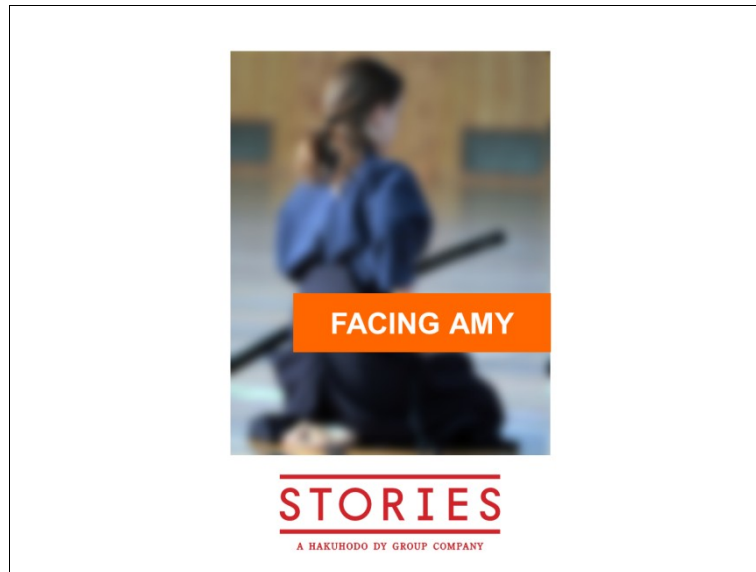
## 5. 国際共同製作ピッチのサンプル「FACING AMY」(15 分)

### 5-1. なぜこの作品が私にとって大切な (2 分)



My name is Tomoya Suzuki from STORIES and I will be pitching a project called FACING AMY. It has been almost a year since the earthquake hit Japan where 15,000 lives were taken and hundreds of thousands of people are still evacuating because of nuclear radiation and tsunami. You probably remember the moment disaster hit last March. Immediately after the quake and nuclear disaster, I began to follow media coverage from around the world and I found that we, Japanese people, don't have the skills to discuss difficult issues. Most of the mass media journalism here claimed that the nuclear radiation was fine or that plants had not melted down but many foreign press warned the danger of the radiation and possible meltdown of plants. I followed the social media such as twitter and blogs. People here were not discussing but arguing by emotionally attacking each other. Some say it is fine as mass media says and others say it is risky to be in the Tohoku area or even in Tokyo. It was very sad to me. I felt we Japanese are bad at dealing with opposing opinions. In fact I felt that we are not good at facing the reality. In other words, we could not face ourselves at the most difficult time when it was most needed.

5-2. なぜ“今”この作品を作ることが大切か（1分）



I thought, I wanted to do something about it. And as a filmmaker, I wanted to deliver the message of the importance of facing other opinions, facing yourself and following your own choices through a drama story as a entertainment feature film and not as a documentary. Story of two opinions represented by a foreign exchange student and a Japanese student colliding came to my mind. As a producer, I wanted to tell the story in an entertainment context, so I decided to have a cute New Zealand high school girl fall in love with a high school boy in Fukushima and have the girl drag him to Hokkaido in order to escape from the nuclear radiation. So today I have an indie size drama project set in Fukushima and Hokkaido about a boy who becomes a man during the earthquake and nuclear accidents.

### 5-3. コンセプトとログライン (1分)

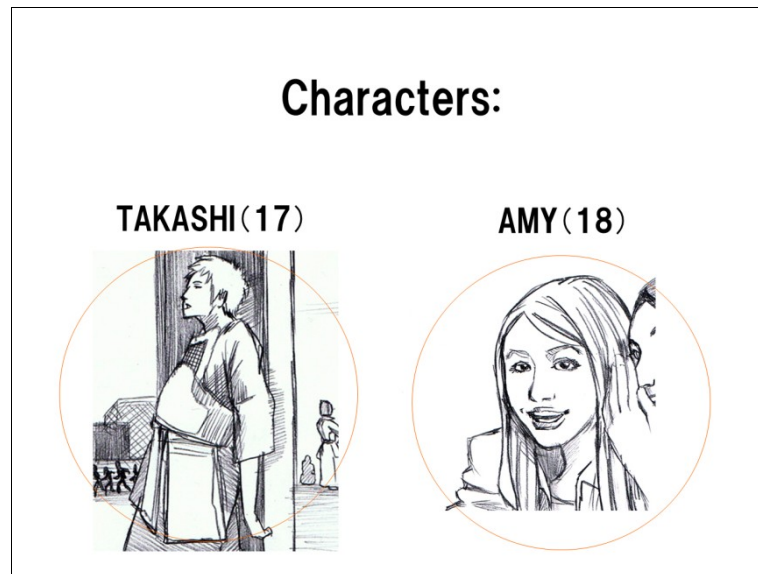
## STORY

- LOGLINE:

**Takashi, a high school boy who doesn't know how to hold a dream, who grows into a man through his journey of running away from Fukushima to Hokkaido with Amy, a student from New Zealand.**

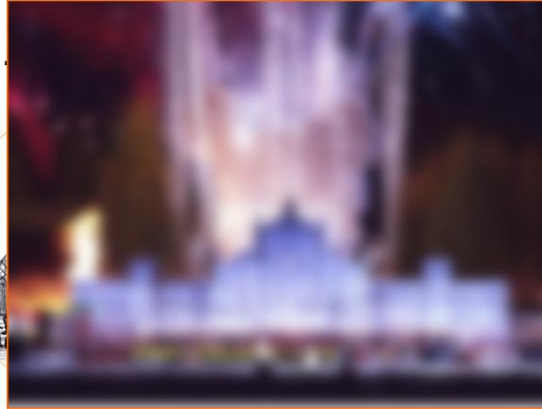
Here's the logline of the story. Set in Koriyama city in Fukushima, This is a story about a high school boy who becomes a man by facing an exchange high school girl from New Zealand during the time of nuclear incidents in 2011.

#### 5-4. キャラクターとシノプシス (7分)



Here's the characters and story. Takashi, 17, a high school kendo student is trapped in a whirlpool of boredom. Kendo is one of the Japanese Martial arts. Unlike his classmates, he has a cynical outlook about his life after high school. That's because he knows he has to work on his father's rice farm. Takashi always enjoyed reading and had once told his father about becoming a writer or a journalist but was forced to give up immediately when his father disapproved of it. The one thing that prevented him from making his case was his mother's last words, "Please support your difficult dad." Amy, 18, an exchange student from New Zealand came to Takashi's high school a year ago has had a crush on Takashi from the very moment she laid her eyes on him with his kendo uniform. Her broken Japanese didn't stop her from being persistent.

## Sapporo Snow Festival:



The two soon feel a connection and one day, Amy tells Takashi she wants to visit the Sapporo Snow Festival, famous for ice sculptures. It's a special place for Amy because it was where her dad proposed to her now deceased mom and where they promised eternal love. Takashi makes a promise with Amy to visit Sapporo together someday.

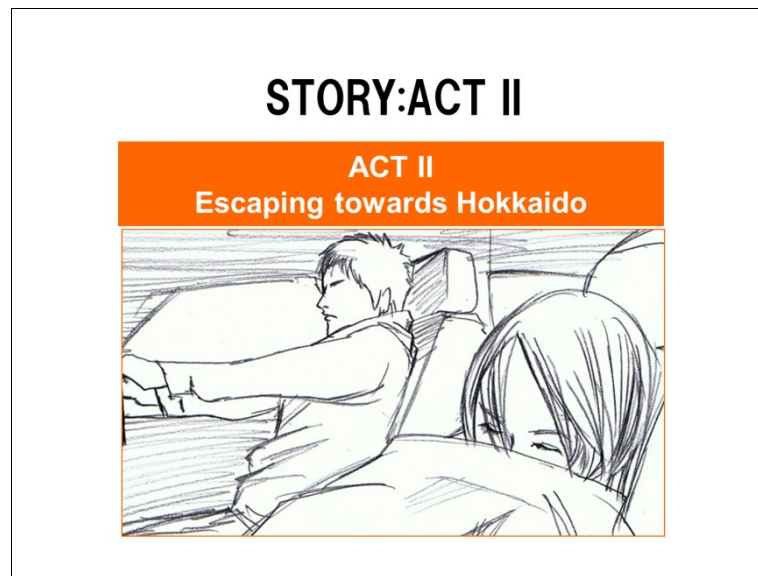
## STORY:ACT I

**ACT I : Inciting incident @ library**



Then, on March 11th, a huge earthquake strikes when the two are in the school library. As huge book shelves collapse, Takashi jumps on top of Amy to cover her. The earthquake demolishes old houses in the neighborhood, but Takashi is lucky enough to return home to his wrecked house and reunite with his dad who somehow survived the ordeal.

Nuclear disaster instantly follows the quake and sends Fukushima, which is only 35 miles away from the site, into restlessness. Takashi and Amy calm themselves by listening to news reports that repeatedly claim everything is safe. Amy sees off her foreign dorm mates who have decided to head home. Amy's dad immediately prompted her to comeback but she couldn't leave Takashi.



As the crisis becomes more concerning, Amy decides to escape from FUKUSHIMA BUT with Takashi. Amy tries to drag Takashi for an escape to Hokkaido by renting a car. She realizes that reports on the nuclear disaster from abroad were completely different to what was reported in the Japanese news. Takashi tries to convince his father to go with them but fails. They get into a huge fight and Takashi ends up moving to Hokkaido with Amy. Along the road to Hokkaido, Takashi and Amy spend nights together at small inns and manga cafés but their relationship become strained. Amy is fixated on foreign websites and can't stop thinking about radiation. Takashi felt Amy was overreacting. Fights break out between the two. Amy screams when Takashi opens the car window. Takashi hates it when Amy tries to put a mask over his face. While the sight of Amy overreacting to every detail frustrates Takashi, Amy couldn't stand how Japanese people were comforting each other without reasoning. They break up after having an emotional argument. Takashi almost heads back to Fukushima by leaving her car but decides to go back towards Hokkaido for Amy. In the meantime, Amy receives a call from her father who insists her to return to New Zealand as soon as she reaches Hokkaido.



## STORY:ACT II

### ACT II Road trip in Hokkaido



Takashi and Amy arrive in Hokkaido. They manage to wander from one tourist spot to another and meet warm people of Hokkaido who comforted their tired souls. Their relationship becomes closer and closer over the trip in Hokkaido. But Amy's father keeps trying to persuade Amy to leave the country but Amy could not decide. Takashi doesn't know what to say.

## STORY:ACT II

### ACT II: Mid Point Meeting with a fisherman



At Ishikari Bay, they come across an old fisherman who had to relocate to Hokkaido due to the Okushiri Earthquake back in 1993. He understands how Takashi's father refused to move out of the only place he calls home. A choice had to be made in the midst of an invisible threat. Takashi's father must have been torn between what he had to protect. Takashi feels like a fool for walking out without thinking half as much as his father did. His mother is buried there. Everything his father loves as well as everything he

believes resides in Fukushima. Amy's heart goes out for the people she left behind. She still fears radiation but her thoughts on this disaster and the people who were affected have changed forever.



The next day, Takashi and Amy visit the site of Sapporo Snow Festival. Displays of ice sculptures were taken down months ago but the two decide to visit where they once promised to visit. It is the same place where Amy's parents promised their eternal love. Now a young couple stands at the promised site. When one promise is kept, they make another promise to keep. "We will meet next year when the snow falls" Future is indefinite. But having the promise gives them the strength to face the future with hope. Amy heads to New Zealand and Takashi returns to Fukushima to face his dad.

## STORY:ACT III

### ACT III :Resolution Becoming a man



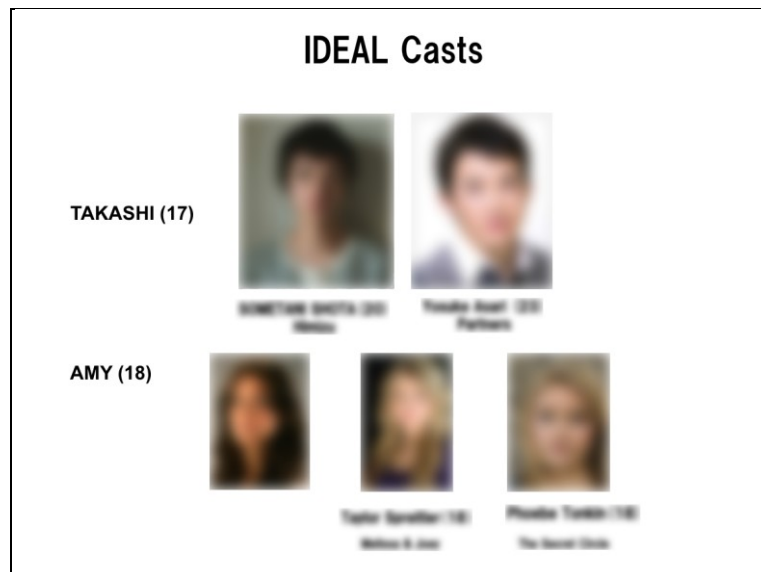
Few months later, Winter. Takashi is studying for a college exam, determined more than ever before to become a journalist. From Amy, he had learned how to face different opinion and be true to himself. Now he knows that he wants to be a journalist who can inspire people. Takashi's father supported his decision though he would have to protect their family farm by himself. His father recalls how his wife once told him she wants "Takashi to become strong enough to make his own choices in life." Takashi's father is proud to talk about his son's dream in front of her grave.

On Takashi's computer screen A Skype message appears, it's from Amy. "How's studying going?"

He replies. "I will be in Hokkaido in February for an entrance exam, it's gonna be snowing there."

Amy replies. "Good luck. I will be in front of the ice sculpture. Let's make another promise to keep for the future." THE END. So this is the story, hope you liked it.

### 5-5. キャストとディレクター候補 (2分)



Next, here's the ideal cast we think will be best for the project. Of course we will cast to target our main Japanese market but will also cast an American actress for the role of Amy to target the international market.

For the role of Takashi, we would like to cast an actor who can portray an innocent look in the beginning and then transform into a man over the journey. These are the candidates. Shota Sometani who showed great acting in the Venetian Film Festival award winning film by Shion Sono would be the first choice to approach also Yosuke Asari who proved his solid acting skill in the film Partners would be good choice for Takashi. For the role of Amy, we would like to cast an actress who has the cuteness that will attract all of Asia, and yet has the core strength to deal with Takashi as an Antagonist. I have in mind as an image is Mandy Moore when she was in A Walk to remember. I just like Mandy and the movie. However she is already 28 and we cannot afford her to join this project but the direction would be something like that We are considering....Taylor Spreitler or Phoebe Tonkin she is from Sydney, Australia. OK. Now move on to ideal director.

## IDEAL DIRECTOR: MITSUYO MIYAZAKI

Mitsuyo Miyazaki



Originally from Osaka, Japan, Mitsuyo started her career as a stage performer/singer/actress at an early age. After receiving a Bachelor's Degree in Theater Arts, Dance performance and Fine Arts from Southern Utah University, she moved to Los Angeles where she appeared in many national commercials, TV shows, feature films, and magazines. While a graduate student at the USC School of Cinematic Arts, she has written, directed, produced and worked as a cinematographer for a number of films. She has also received several awards for online film and advertising competitions and was a finalist for the 2009 Coca Cola Refreshing Filmmakers Award and Cisco System Digital Crib Short Documentary Competition. A short film "Tsuyako," she produced won 15+ awards from various international film festivals including three Academy Award qualifying festivals (2011 Palm Springs IFF, 2011 Guanajuato IFF and 24th International Foyle Film Festival).

Winner - Best International Short Film Fiction - 2011 Guanajuato IFF, Mexico (Oscar Qualifying)  
Winner - Best International Short Film - 24th International Foyle Film Festival, Northern Ireland (Oscar Qualified)

Winner - DGA Student Award - Best Woman Filmmaker Award  
Winner - Future Filmmaker Award (Jury Prize) - 2011 Palm Spring International ShortFest  
Winner - Best Short Film - 2012 Zineoak, Spain  
Winner - Best Short Film - 2011 Albuquerque Film Festival  
Winner - Best Short Film - 2011 Long Beach O-Fest

Winner - Audience Award, Outstanding Dramatic Short - 2011 Outfest  
Winner - Audience Award - 2011 Short Shorts Film Festival & Asia  
Winner - Audience Award - 2011 Hawaii International Film Festival  
Winner - Audience Award Runner-up - 2011 Palm Spring International ShortFest  
Winner - Audience Award - 2011 Fresno Real Pride GLTB Film Festival  
Winner - 3rd Award in International competition - Zubroika 2011 Festival  
Nominee - 2011 Cardiff International Iris Prize  
American Cinematheque's 7th Annual Focus on Female Directors - January 5, 2012 - Hollywood, CA

TSUYAKO



Clarisonic



Coca Cola Short



Diesel TVCM



For the Director, we would like to bring a creator who can bring a dignified poise to the picture. Director needs to get into the mind and heart of an untamed protagonist and express the subtlety of youth. Since this is a global project, the director needs to have experience at an international stage and at the same time be able to explain the subtlety to Japanese cast in Japanese language. My first choice is our partner, Mitsuyo Miyazaki. This is her profile.

5-6. 対象となる観客は誰か (1 分)

Concept / Target Audience
<b><u>CONCEPT</u></b> Fish out of Water = A boy becomes a man
<b><u>GENRE/SETTING</u></b> Indie size Drama / Modern (March 11 <sup>th</sup> Disaster in Japan)
<b><u>TAGLINE</u></b> Do you keep your promises made to yourself?
<b><u>TARGET AUDIENCE</u></b> Primary: Young Male/Female

These are core elements of the project. Concept: Fish out of water Story in other words. A boy becomes a man.

Genre is an Indie size Drama and set in modern day in Fukushima and Hokkaido. Promise is the key of the main plot, therefore Tagline for this project is “Do you keep your promises made to yourself?” Target Audience of course would be young female and male as the story is film for the youth. And I really want young people to think about the theme of facing themselves and choosing life by making their own decision by showing the collision between these two characters.

## Locations

### FUKUSHIMA Prefecture

- \*Koriyama City
- \*Roadside Manga Cafe/ Small inn

### HOKKAIDO Prefecture

- \*Sapporo Clock Tower
- \*Sapporo Snow festival site (Both during the fest and after)
- \*Small Restaurant in Ishikari
- \*Other sightseeing spots



Here are the location candidates. FUKUSHIMA Prefecture: Koriyama City, Roadside Manga Café/ Small inn. HOKKAIDO Prefecture: Sapporo Clock Tower, Sapporo Snow festival site (Both during the fest and after) , Small Restaurant in Ishikari, and other sightseeing spots.

## 5-7. 作品のおおよその予算とスケジュール (1 分)

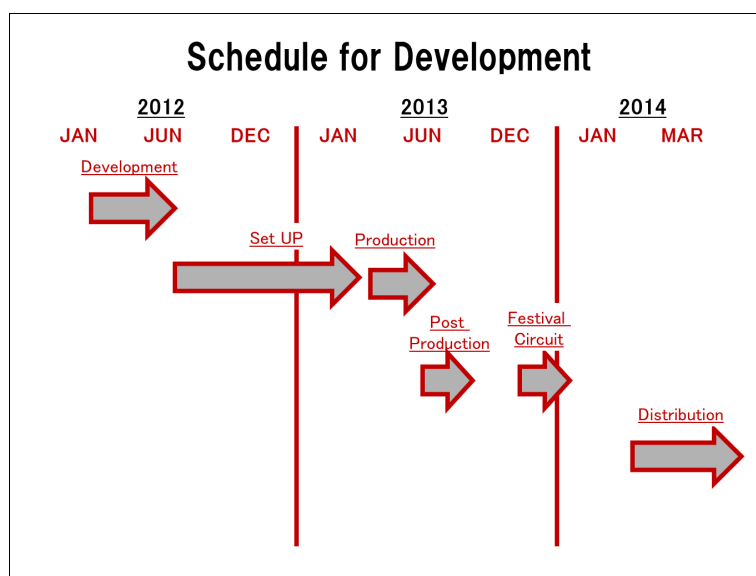
Business overview of the project	
▪ Distribution	Festival Circuit+Platform
▪ Negative Cost (\$532,000)	70 Million JPY
▪ P&A	30 Million JPY (\$200,000)
▪ BO Objective	300 Million Yen (\$2.5 million)
▪ Breakeven BO	77 Million Yen (\$600,000)

For promotion, putting into consideration the film's theme, we plan on running the international festival circuit. For our distribution strategy, we plan on first releasing in 30 screens, and then going to 60. So-called plat form release. We plan on getting 300 million yen (\$2.5 million USD) in BO. We're also putting into consideration international distribution through our festival circuit and revenue coming from this. We've included a BO revenue forecast analysis as an appendix, but we believe we can reach the breakeven point at 77 million yen (\$600,000 USD) BO, and this will equal to opening in 7 cities for 2 weeks.



Budget/Schedule	
Development	¥5,000,000 (\$38,000)
Cast/Director	¥10,000,000 (\$78,000)
Production/Post	¥55,000,000 (\$429,000)
P&A	¥30,000,000 (\$234,000)
<hr/>	
Total	¥100,000,000 (\$780,000)

The development budget for this project will be 5,000,000 yen (\$38,000) . To make it a gravitating project, we plan to put emphasis on script development. For the production budget breakdown, 10 million yen (\$78,000) will be spent on cast and 55 million yen (\$460,000) will be spent on production. Add P&A on top of that with 30 million yen (\$234,000) and our budgeted total is 100 million yen (\$780,000) . The schedule will be as follows.



This is our schedule. We will be developing the script and packaging it in 2012, then shoot and complete the film and run the festival circuit in 2013. Then in March of 2014, 3 years after the disaster, we plan on releasing it theatrically.

**Thank you very much!**

**STORIES**

A HAKUHODO DY GROUP COMPANY

+81-3-6441-9032

[contact@stories-llc.com](mailto:contact@stories-llc.com)

We will develop this project with passion and care, and to make it a film that will start in Japan but will be loved by the people all over the world. As mentioned in the BO analysis, we believe this will be a project that will do well in the market place. We will make this project both a commercial and artistic success. We strongly wish that you become a partner and part of our team to make this happen. If you are interested in this project, please contact myself, Tomoya Suzuki of STORIES. Thank you once again for your time.